

平成20年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ウルメイワシ

学名 *Etrumeus teres*

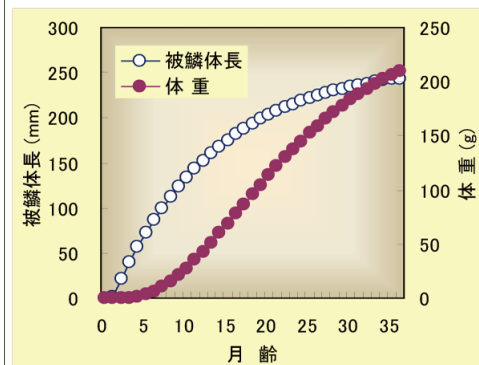
系群名 対馬暖流系群

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 2歳
成熟開始年齢: 1歳
産卵期・産卵場: 東シナ海では周年、日本海では春季
索餌期・索餌場: 夏～秋季、日本海西部～東シナ海
食性: 稚魚期・成魚期とも動物プランクトン
捕食者: 大型魚類やほ乳類、海鳥類、頭足類

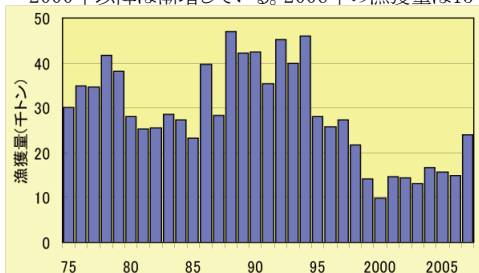


漁業の特徴

東シナ海区では中小型まき網や敷網、日本海西区では大中型まき網、中型まき網、定置網、敷網により漁獲される。日本海北区では定置網、敷網、まき網などで混獲される程度である。漁獲が多いのは東シナ海区と日本海西区である。

漁獲の動向

対馬暖流域において1981～1997年の漁獲量は約23千～47千トンで推移していたが、1998～2000年に減少した。2000年以降は漸増している。2006年の漁獲量は15千トン、2007年の漁獲量は24千トンであった。



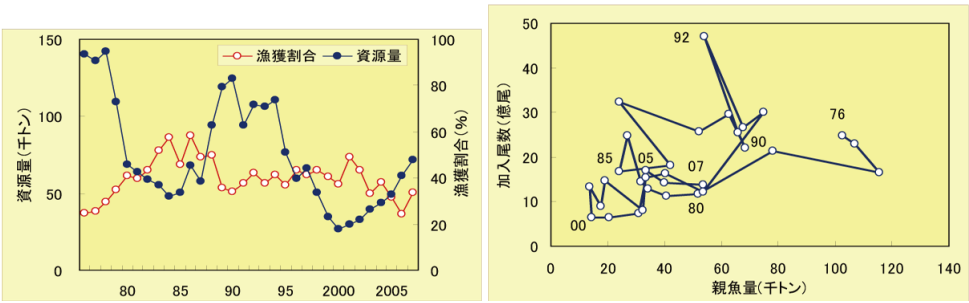
資源評価法

コホート解析により資源量を推定した。寿命は2歳とし、最近年のFは過去3年間の平均値とした。自然死亡係数は0.7とした。ほかに、ノルバックネット鉛直曳による卵豊度の推定と計量魚群探知機調査を行った。

資源状態

コホート解析から計算された資源量は、1978年に142千トンを示した後に減少し、1984年に48千トンとなった。その後、増加し始め、1990年に125千トンとなった後に、1993年まで100千トン程度で推移した。その後、再び減少し始め、2000年には27千トンとなった。2000年以降は増加傾向にあり、2007年には71千トンとなった。





管理方策

本資源はBlimit(リッカー型再生産関係の最大加入量の50%が期待できる親魚量が22千トンであることから、Blimitは1999年水準の親魚量21千トンとする)以上である。現状で、資源は中位・増加であり、Fmsyを管理基準とすることで、加入量のさらなる増大を見込める。

	2009年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	26千トン	Fmsy	0.58	31%
ABClimit	22千トン	0.8Fmsy	0.46	26%

- Fcurrentは最近3年間の平均のF

資源評価のまとめ

- コホート解析により資源量を推定した
- 資源量は1990年代後半に減少したが、2001年以降やや増加に転じた
- 親魚量はBlimit以上である
- 2001年以降の加入尾数は2000年よりも多かった

管理方策のまとめ

- 近年加入の変動が激しいので、今後の動向を注意深く見守る必要がある

資源評価は毎年更新されます。